

P3PC-E702-04

fi-4010CU

イメージスキャナ オペレータガイド



FUJITSU

安全にお使いいただくために

本取扱説明書について

本書には、お買い上げいただいた製品を安全に正しく使用するための重要な事柄が記載されています。本製品をご使用される前に、本書を熟読してください。特に、本書に記載されている『安全上のご注意』は、必ずお読みいただき、内容をよく理解された上で本製品をお使いいただくようお願いいたします。また、本書は、本製品の使用中にいつでもご覧になれるように、大切に保管してください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波自主規制協議会（VCCI）基準に基づくクラスB情報処理装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としておりますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

国際エネルギースタープログラムについて



当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムはエネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる装置は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマークは参加各国で統一されています。

高調波ガイドライン適合品

ハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。また、お客様がハイセイフティ用途に本製品を使用したことにより発生する損害につきましては、お客様または第三者からのいかなる請求または損害賠償に対しても当社は一切その責を負いません。

事業系の使用済み製品の引き取りとリサイクルについてお願い

- この製品の所有権が事業主の場合には、使用後に廃却される製品は産業廃棄物扱いとなり、廃棄するにはマニフェスト伝票（廃棄物管理表）の発行が必要となります。
- 製品所有者が当社に廃棄を依頼される場合には、当社と連携している物流会社（産業廃棄物収集運搬許可業者）にて引取りを行いますので、その際には「P F Uライフビジネス株式会社 首都圏リサイクルセンター」（電話：0467-70-7290）へ問い合わせをお願いします。
- 当社では、リサイクルシステムを構築し、リサイクルセンターで使用済み製品の解体、分別処理により、部品の再使用や材料へのリサイクルを行っています。

水銀使用について

本製品のランプには水銀が使用されています。危険防止のために下記の事項を遵守してください。

- 口に入れないでください
本製品の水銀が体内に入ると危険です。
- 気体や粉末、液体にしないでください
本製品を焼いたり、砕いたり、科学的処理をした液体を吸引、誤飲すると危険です。

- 廃棄する場合は、関係国内法及び貴社廃棄物処理規定に従ってください
本製品を廃棄する場合は、一般産業廃棄物や家庭用廃棄物とは別にしてください。

グリーン製品について

本製品は、当社の厳しい環境評価基準（リサイクル、省エネルギー化、環境にやさしい素材の採用など）をクリアした地球にやさしい「グリーン製品」として提供しています。詳細は、富士通のホームページ「環境のコーナー」をご覧ください。

<http://eco.fujitsu.com/>

複製について

紙幣、貨幣、政府発行の有価証券およびパスポート、公共団体や民間団体発行の免許証許可証、公文書、私文書などの複製は違法であり、処罰の対象となります。

紙幣等の偽造防止について

紙幣、有価証券などをスキャナを使用してプリンタに不正に印刷すると、その印刷物の使用如何にかかわらず、下記の法律に違反し、罰せられます。

刑法 第148条、第149条、第162条

通貨及証券模造取締法 第1条、第2条

等

著作権に関して

書籍、絵画、版画、地図、図面、および写真などの著作物は、個人的にまたは家庭内その他、これに準ずる限られた範囲内で使用する用途以外は、権利者の許可なしに複製することはできません。

商標および登録商標について

- Windows、Windows NT は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- ISIS は、Pixel Translations, A Division of Actionpoint Inc. の登録商標です。
- Adobe、Adobe ロゴ、Acrobat、および Acrobat ロゴは、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の商標です。
- その他、本書中の商品名や製品名は、各社の登録商標または商標です。

- 本書の内容の全部または一部を複製すること、およびソフトウェアを複製することは著作権法上禁止されております。
- 本書の内容は、将来予告なしに変更することがあります。
- 本装置の使用および本書に記載された内容に起因した損害、逸失利益、および第三者からのいかなる請求等につきましても、当社は一切その責を負いません。
- 本装置の保証条件は、同梱の当社所定の保証書の規定をご覧ください。
- 本装置の修理部品の最低保有期間は、製造中止後 5 年間です。
- 落丁、乱丁本はお取り替えいたします。

All Rights Reserved, Copyright© 株式会社 P F U 2001-2002

はじめに

このたびは、fi-4010CU イメージスキャナ装置をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本装置は、高精画像を読み取ることのできるスキャナ装置です。

本取扱説明書は、本装置の基本的な取り扱いについて説明しています。

ご使用の際は、本取扱説明書をお読みにになり、本装置を正しくご使用くださるよう、お願いいたします。

本取扱説明書の表記について

本取扱説明書では、使用者および周囲の方の身体や財産に損害を与えないための警告表示をしています。警告表示は、警告レベルの記号と警告文から構成されています。以下に、警告レベルの記号を示し、その意味を説明します。



この記号は、正しく使用しない場合、死亡する、または重傷を負うことがあり得ることを示しています。



この記号は、正しく使用しない場合、軽傷または中程度の傷害を負うことがあり得ることと、当該製品自体またはその他の使用者などの財産に損害が生じる危険性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の記号と同時に次の記号を使用しています。



△で示した記号は、警告／注意を促す事項であることを示しています。記号の中には、具体的な警告内容を表す絵（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを示しています。記号の中やその脇には、具体的な指示内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを示しています。記号の中には、具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

本書に記載されている画面について

画面は、改善のため予告なく変更することがあります。
表示された画面が、本書に記載されている画面と異なる場合は、対象ソフトウェアの取扱説明書を参考にするなどして、実際の画面に従って操作してください。
なお、本書に記載している画面は、FUJITSU TWAIN32 スキャナドライバのもので

安全上のご注意

本装置に関する重要な警告事項は以下のとおりです。本装置を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

電源についてのご注意



禁止

- ACアダプタは、交流 100V、15A 専用コンセント以外は差し込まないでください。たこ足配線をしないでください。火災や感電の原因となります。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。重いものを載せたり、引っばったり、無理に曲げたりしないでください。電源コードを傷め、火災や感電の原因となります。
- 必ずスキャナに付属の電源コード (AC アダプタ) をお使いください。延長コードは使わないでください。異常な発熱や火災原因となります。
- 電源コードやACアダプタが傷んだり、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。そのまま使用すると、火災、感電の原因となります。修理にはお買い求めの販売店または最寄りの保守サービスセンターにご連絡ください。



感電

- インタフェースケーブルおよびオプション製品を接続するときは、ACアダプタをコンセントから抜いてください。感電の原因となります。
- 濡れた手でACアダプタを抜き差ししないでください。感電の原因となります。



指示

- ACアダプタやコンセントにほこりが付着している場合は、乾いた布でよく拭いてください。そのまま使用すると、火災の原因となります。



プラグ

- 次のようなときには直ちに使用を中止し、ACアダプタをコンセントから抜いてください。その後、お買い求めの販売店または最寄りの保守サービスセンターにご連絡ください。
 - スキャナから発煙したり、スキャナの外側が異常に熱くなった場合
 - 異常な音がする場合
 - スキャナの内部に水が入った場合そのまま使用すると、発火の原因となります。

- 近くで雷が起きたときは、ACアダプタをコンセントから抜いてください。
そのままにしておく、機器を破壊する原因となることがあります。

注意



指示

- ACアダプタは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。
火災や故障の原因となることがあります。



プラグ

- スキャナの清掃、保守および故障の処置を行う場合は、必ずACアダプタをコンセントから抜いてください。
ACアダプタをコンセントから抜かずにスキャナの清掃や保守を行うと、感電の原因となることがあります。
- 長期間スキャナを使用しないときは、安全のため必ずACアダプタをコンセントから抜いてください。
火災や感電の原因となることがあります。



禁止

- ACアダプタをコンセントから抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。
電源コードを引っぱるとコードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
- 蛍光灯を見つめないでください。
- 1カ月に一度は、次のような点検をしてください。
 - ACアダプタが電源コンセントにしっかり差し込まれていますか。
 - ACアダプタに異常な発熱、サビおよび曲がりなどありませんか。
 - ACアダプタやコンセントに細かいホコリがついていませんか。
 - 電源コードに亀裂や擦り傷などはありませんか。異常がある場合は、お買い求めの販売店または最寄りの保守サービスセンターにご連絡ください。

設置および移動時のご注意

警告



禁止

- 高温、多湿の場所や換気が悪くホコリの多い場所には、スキャナを設置しないでください。
火災や感電の原因となります。
- ストーブやヒーターなどの発熱器具に近い場所、揮発性可燃物やカーテンなどの燃えやすいものに近い場所には、スキャナを設置しないでください。
火災の原因となります。



水気

- 風呂場、シャワー室などの水場で使用しないでください。
火災や感電の原因となります。

注意



禁止

- 振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりしてケガの原因となることがあります。
- 直射日光の当たる場所や炎天下の車内など、高温になる場所に長時間放置しないでください。
高温によってカバーなどが加熱、変形、溶解する原因となったり、スキャナ内部が高温となり、火災の原因となることがあります。



プラグ

- スキャナを移動する場合は、必ずACアダプタをコンセントから抜いてください。
電源コードが傷つき、火災や感電の原因となったり、本スキャナが落ちたり、倒れたりしてケガの原因となることがあります。



指示

- スキャナを移動したり保管したりする前に、ロックスイッチを必ず出荷時位置（ロック側）に移動させてください。

スキャナ使用上のご注意

警告



禁止

- スキャナの上に花瓶、植木鉢、コップなどの水の入った容器を置かないでください。
水がこぼれた場合、火災や感電の原因となります。
- スキャナの上に金属類を置かないでください。
すき間などから内部にクリップやホチキスの針のような金属類や燃えやすいものが入り込むと、スキャナ内部がショートし、火災や感電の原因となります。
- スキャナに水をかけたり、濡らしたりしないでください。
火災や感電の原因となります。
- 開口部（給紙口など）から内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災や感電の原因となります。



プラグ

- 異物（金属片、水、液体など）が内部に入った場合は、ただちに、ACアダプタをコンセントから抜いてください。その後、お買い求めの販売店または最寄の保守サービスセンターにご連絡ください。
そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。
- スキャナを落としたり、カバーなどを破損した場合は、ACアダプタをコンセントから抜いてください。その後、お買い求めの販売店または最寄りの保守サービスセンターにご連絡ください。
そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。



分解

- ネジで固定されているカバーなどは、絶対に開けないでください。
内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。
- スキャナを改造したり、部品を変更して使用しないでください。
火災の原因となります。

注意



禁止

- スキャナの近くで強燃性スプレーを使用しないでください。
引火の原因となることがあります。
- 清掃などの目的でエアスプレーを使用しないでください。スプレーから噴射される強い空気によって、埃などが装置内部に侵入し、故障や装置異常の原因となる場合があります。

- スキャナの上に重いものを置かないでください。また、衝撃を与えないでください。
バランスが崩れて倒れたり、落下してケガの原因となることがあります。
- 機器の開口部（給紙口など）をふさがないでください。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- 使用中の機器は布などでおおったり、包んだりしないでください。
熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- つまった用紙を取り除いたり故障処置を行うときは、鋭利部に触れないよう注意してください。
ケガをすることがあります。
- 機器が動作中の時は、給紙口や排紙口に手を触れないようにしてください。
ケガをすることがあります。
- 強い磁界やノイズ発生源から離して設置してください。
また、静電気を避けてください。静電気を発生させますと誤作動の原因となります。床材や設置する机には静電気を発生させない材質のものを選んでください。
- 本装置は日本国内専用です。
海外などで使用すると、火災や感電の原因となる場合があります。
- つまった用紙を取り除いたり故障処置を行うときは、ネクタイやネックレスなどがスキャナ内部に巻き込まれないように注意してください。
- ケーブルの接続は本書をよく読み、接続に間違いがないようにしてください。
誤った接続状態で使用すると、スキャナ本体および周辺機器が故障する原因となることがあります。
- 破棄する場合は、一般の廃棄物と一緒にしないでください。
蛍光管の中には水銀が含まれています。ごみ廃棄場で処分されるごみの中に捨てないでください。
蛍光管の破棄にあたっては、地方自治体の条例、または規則に従ってください。



指示

2000年12月

2002年10月 04版

目 次

安全にお使いいただくために	i
はじめに	v
本取扱説明書の表記について	vi
本書に記載されている画面について	vii
安全上のご注意	viii
1. お使いになる前に	1
1.1 概要	1
1.1.1 fi-4010CU イメージスキャナとは	1
1.2 箱の中身を確認する	2
1.3 各部の名称と働き	3
2. 装置の設置と接続	5
2.1 こんな場所には設置しない	5
2.2 出荷時のロックの解除方法	6
2.3 原稿サポートA、原稿サポートB、原稿ストッパを取り付ける	7
2.4 接続のしかた	8
2.4.1 接続時の注意	8
2.4.2 USBケーブルを接続する	9
2.4.3 ADFケーブルを接続する	9
2.4.4 電源ケーブルを接続する	9
2.4.5 スキャナドライバとソフトウェアのインストール	10
3. 操作のしかた	11
3.1 操作時の注意	11
3.2 フラットベッドで原稿を読み取る	13
3.2.1 原稿の状態を確認する	13
3.2.2 厚みのある原稿を読み取る	14
3.3 自動給紙部（ADF）で原稿を読み取る	15
3.3.1 原稿の状態を確認する	15
3.3.2 原稿のセットのしかた	17
3.4 原稿を読み取る	19

4. 使用時の注意	20
4.1 原稿詰まりの処理	20
4.2 日常の手入れ	21
4.3 清掃のしかた	21
4.3.1 清掃用品	21
4.3.2 フラットベッドの清掃	22
4.3.3 自動給紙部（ADF）の清掃	23
4.4 消耗品	26
4.4.1 消耗品の商品番号と交換周期	26
4.4.2 パッドユニットの交換	27
5. 故障かなと思ったときに	30
A. 設置諸元	32
修理・お問い合わせについて	34

1. お使いになる前に

この章では、製品の概要と特長、および各部の名称について説明します。

1.1 概要

ここでは、fi-4010CU イメージスキャナの概要と特長について説明します。

1.1.1 fi-4010CU イメージスキャナとは

fi-4010CU イメージスキャナ（本装置）は、高精画像を読み取ることのできるスキャナ装置です。

添付のソフトウェアを利用することで、以下のことができます。

イメージキャプチャリングユーティリティソフトウェアを利用することで、

- － 本装置で読み取ったデータを、tiff 形式などのデータでパソコンに保存できます
- － 本装置で読み取ったデータを、パソコンに接続されたプリンタに出力できます

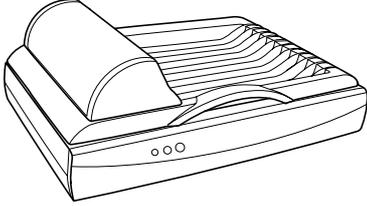
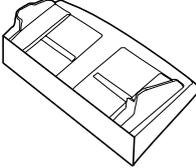
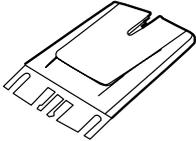
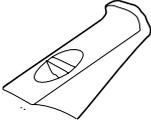
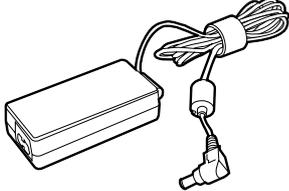
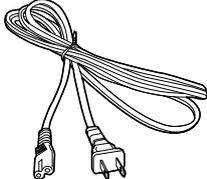
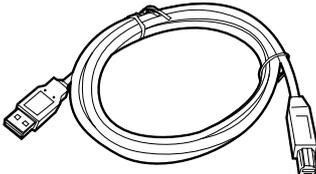
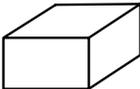
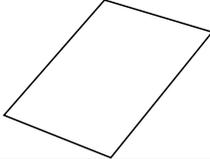
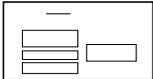
本装置の特長を以下に示します。

- － 高品質ADF（自動給紙部）
業務用スキャナに匹敵する給紙品質を実現します。
- － 設置しやすいコンパクトボディ
スキャナ本体が軽量でコンパクトに設計されているので、設置が容易です。
- － カラー読み取り
600×600dpi（主走査×副走査）の画像品質を実現します。

1.2 箱の中身を確認する

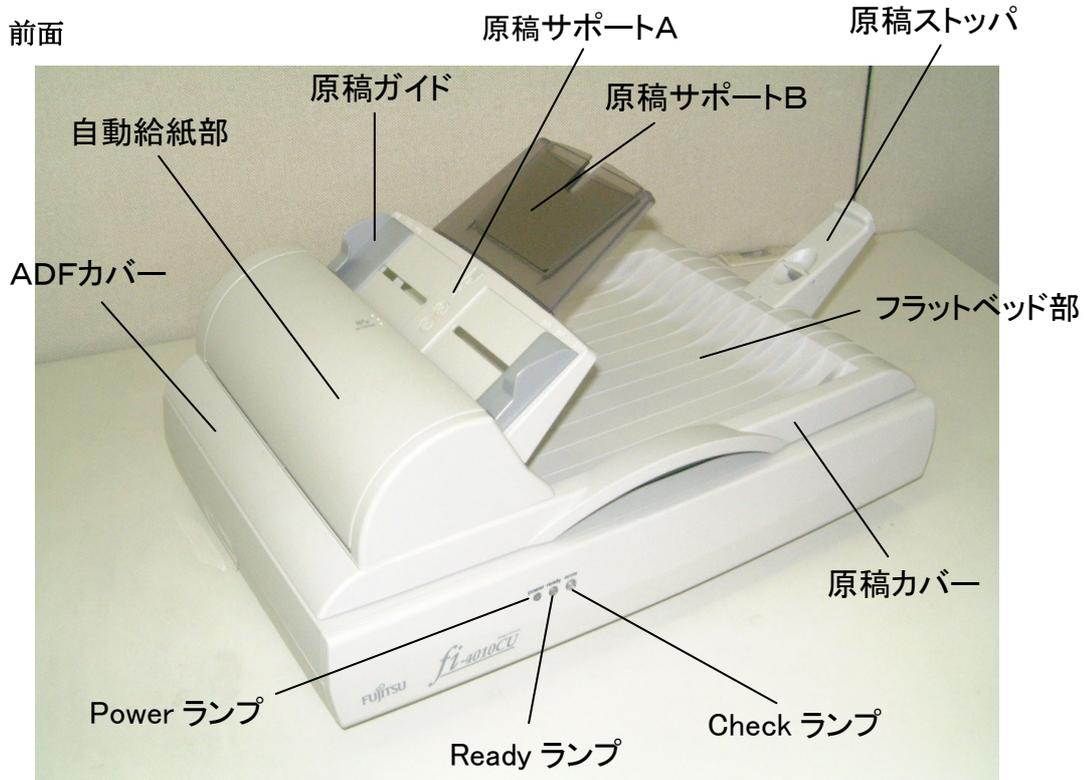
本装置は、添付品とともに梱包材で保護し梱包してあります。箱から取り出したら、まず以下の梱包品が揃っているかどうかを確認してください。

万一、以下の梱包品が揃っていない場合や不良品がありましたら、お買い求めの販売店または巻末のイメージングサービス&サポートセンターまでご連絡ください。

<input type="checkbox"/> スキャナ本体 	<input type="checkbox"/> 原稿サポートA 	<input type="checkbox"/> 原稿サポートB 
<input type="checkbox"/> 原稿ストップパ 	<input type="checkbox"/> ACアダプタ 	<input type="checkbox"/> 電源ケーブル 
<input type="checkbox"/> USBケーブル 	<input type="checkbox"/> パッドユニット 	<input type="checkbox"/> スキャナドライバ (CD-ROM) 
<input type="checkbox"/> Adobe® Acrobat® 5.0 (CD-ROM) 	<input type="checkbox"/> オペレータガイド (本書) 	<input type="checkbox"/> クイックインストール ガイド 
<input type="checkbox"/> ユーザ登録カード 	<input type="checkbox"/> 保証書 	

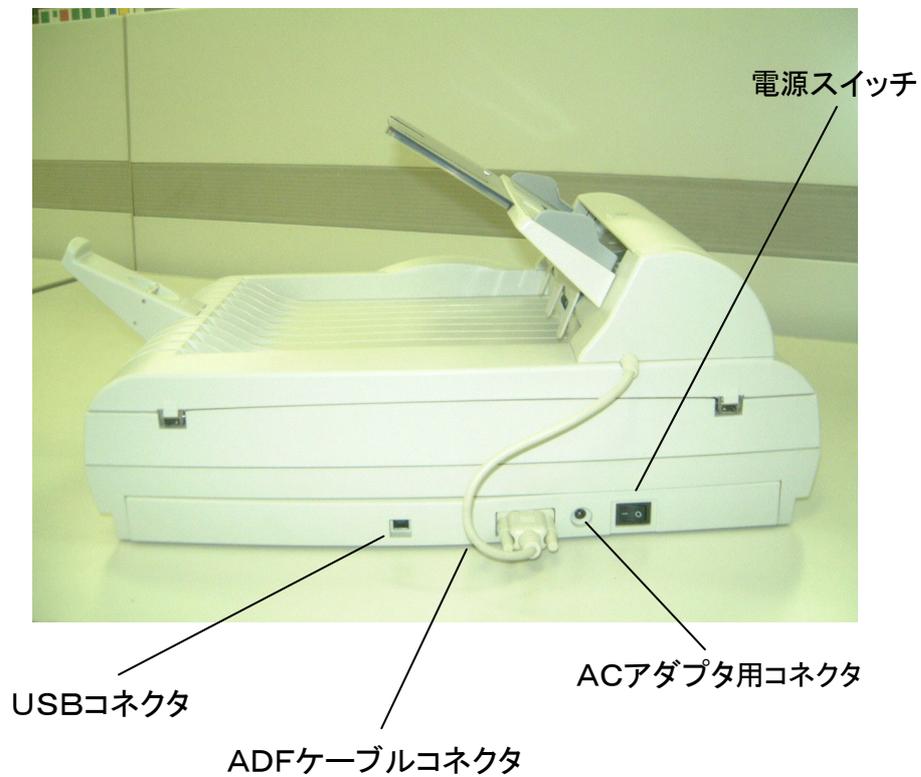
1.3 各部の名称と働き

ここでは、本装置の各部の名称と機能について説明します。



品 名	機 能
原稿サポートA	自動給紙部（ADF）から原稿を読み取るときに原稿をのせます。
原稿サポートB	原稿が垂れ下がらないように支えます。
原稿ガイド	原稿がまっすぐ送られるように、原稿を押えます。
原稿ストッパ	自動給紙時：原稿サイズによって位置を調整します。
原稿カバー	自動給紙時：排出された原稿を受けるスタックの役割をします。 フラットベッド読取時：原稿を押さええます。
自動給紙部（ADF）	自動で原稿を読み取ります。
ADFカバー	原稿が詰まったときに開け、原稿を取り除きます。
フラットベッド部	1枚ずつ原稿を読み取る場合に使用します。
Powerランプ	電源が入っている時に点灯します。
Readyランプ	原稿の読み取り動作が可能な時に点灯します。
Checkランプ	エラーが発生した時に点灯します。

背面



品 名	機 能
電源スイッチ	電源を投入、切断するときに使用します。
ACアダプタ用コネクタ	ACアダプタを接続します。
ADFケーブルコネクタ	ADFケーブルを接続します。
USBコネクタ	USBケーブルを差し込んで、パソコンと接続します。

2. 装置の設置と接続

イメージスキャナをパソコン本体に接続します。

次の要領で設置および接続をしてください。

外形寸法などについては「付録A 設置諸元」を参照してください。

2.1 こんな場所には設置しない

設置するときには、場所や環境について次のことに注意してください。



火災・感電 装置を分解したり、改造したりしないでください。内部に高電圧部分があります。



転倒・落下

- 装置を不安定な場所に置かないでください。振動が少なくて装置が傾かないような平らな場所に、装置のゴム足がきちんと付くように置いてください。
- 装置の上に重いものを置いたり、装置の上で作業したりしないでください。

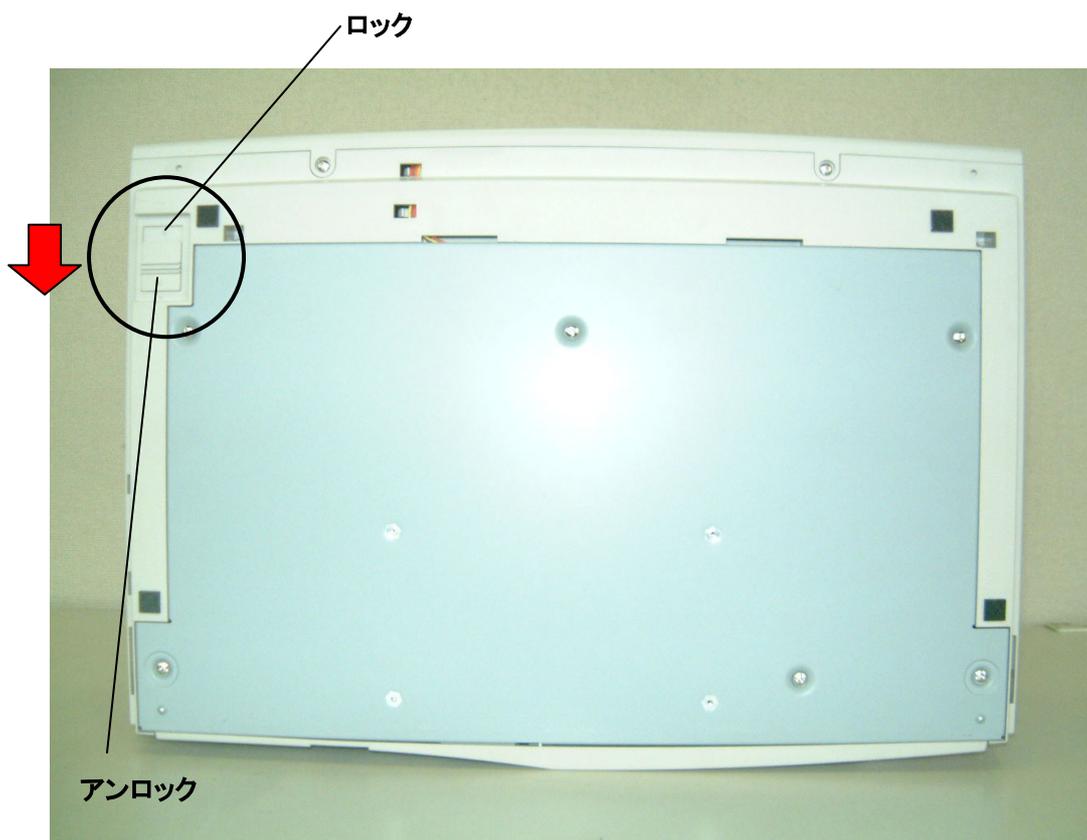
火災・感電 直射日光の当たる場所や暖房機の近く、湿気、ホコリの多い場所には置かないでください。通気性、換気性の良い場所で使用してください。

火災・感電／
転倒・落下 機器を移動する場合は、必ずプラグをコンセントから抜いてください。また、接続ケーブルなども外してください。作業は足元に十分注意して行ってください。

誤作動 強い磁気やノイズ発生源から離して設置してください。また、静電気を避けてください。静電気が発生すると、誤作動の原因になります。床材や設置する机には静電気を発生させない材質のものを選んでください。

2.2 出荷時のロックの解除方法

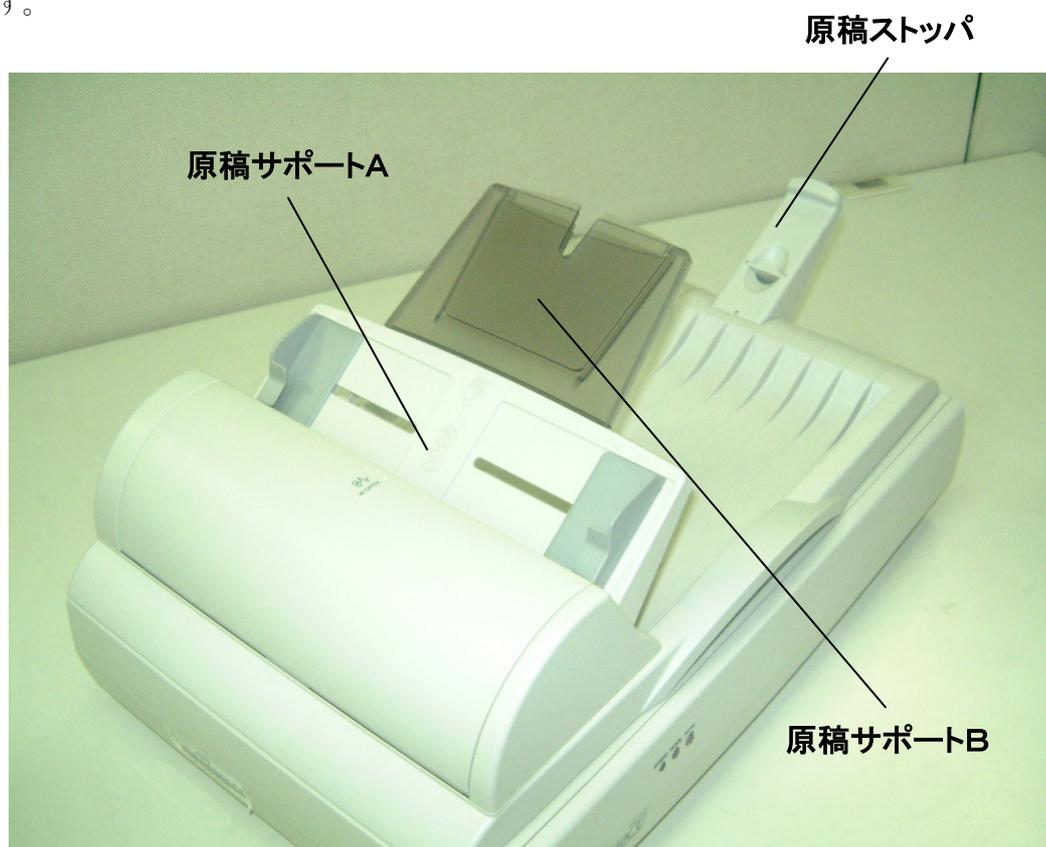
- 1) ロックスイッチは装置裏面にあります。
- 2) ロックスイッチを「アンロック」位置に移動して、スキャナのロックを解除します。



- スキャナを移動したり保管したりする前に、ロックスイッチを必ず出荷時位置（ロック側）に移動させてください。
なお、ロックするときは、キャリアユニットがホームポジションに戻っていることを確認してからおこなってください。

2.3 原稿サポートA，原稿サポートB，原稿ストップを取り付ける

本装置にスタッカと原稿サポートA、原稿サポートB、原稿ストップを取り付けます。



2.4 接続のしかた

ここでは、電源ケーブル、USBケーブル、ADFケーブルの接続のしかた、およびスキヤナドライバのインストールについて説明します。

2.4.1 接続時の注意

接続する場合には、次のことに注意してください。



- 火災・感電
- 同梱の AC アダプタ以外のものは使用しないでください。火災・故障などのおそれがあります。
 - 機器の取付けや取外しを行う場合は、パソコンの電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに手順書に従って行ってください。
 - 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。また、タコ足配線をしないでください。
 - 濡れた手で電源ケーブルや AC アダプタを抜き差ししないでください。
 - 電源ケーブルの刃、および刃の取り付け面にホコリが付着している場合は、乾いた布でよく拭いてください。
 - 重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりして電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。
 - 電源ケーブルが傷んだり、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。



- 火災・感電・故障
- 電源ケーブルはコンセントの奥まで確実に差し込んでください。
 - 電源ケーブルを抜くときは、プラグ部分をもってコンセントから抜いてください。
 - 複写機やシュレツダのような消費電力の大きい機器と同じコンセントから、電源をとらないでください。

2.4.2 USBケーブルを接続する

USBケーブルをUSBコネクタに差し込みます。
ケーブルの反対側のコネクタを、パソコン本体に接続します。



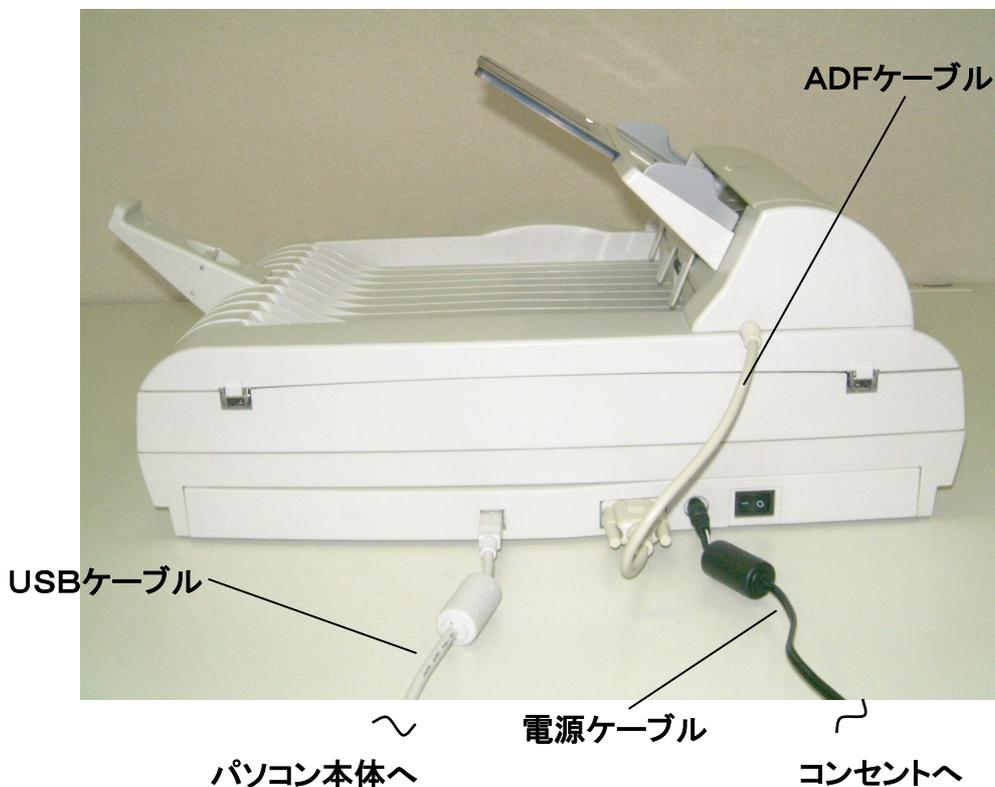
- USBケーブルは、同梱のUSBインタフェースケーブルをご使用ください。市販のUSBケーブルでの動作確認はしておりません。
- USBハブに接続する場合、必ずパソコンに一番近いUSBハブ（1段目）に接続してください。2段目以降のUSBハブに接続した場合、動作しないことがあります。

2.4.3 ADFケーブルを接続する

ADFケーブルをADFケーブルコネクタに接続し、ネジで固定します。

2.4.4 電源ケーブルを接続する

- 1) 電源ケーブルをスキヤナのACアダプタ用コネクタに接続します。
- 2) ACアダプタをコンセントに差し込みます。



2.4.5 ドライバとソフトウェアのインストール

添付のスキヤナドライバ CD-ROM から、スキヤナドライバとイメージキャプチャリングソフトウェア ScandAll 21 をインストールします。インストール方法は、添付のクイックインストールガイドを参照してください。

3. 操作のしかた

原稿サポートに原稿をセットし、自動給紙部（ADF）で読み取ります。

ここでは、操作時の注意およびそれぞれの原稿の読み取りかたについて説明します。

3.1 操作時の注意

操作する場合には、次のことに注意してください。



- 火災・感電
- 万一、機器から発熱や煙、異臭や音がするなどの異常が発生した場合は、ただちに機器本体の電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が消えるのを確認してお買い求めの販売店または最寄りの保守サービスセンターにご連絡ください。お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめください。
 - 開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
 - 機器を落としたり、カバーなどを破損した場合は、電源プラグをコンセントから抜いて電源を切ってください。その後、お買い求めの販売店または最寄りの保守サービスセンターにご連絡ください。



- 火災・感電・故障
- コーヒーなどの液体やクリップなどの金属片が装置内部に入らないように気をつけてください。
 - 本体に水をかけたり、濡らしたりしないでください。
 - 異物（水・金属片・液体など）が機器の内部に入った場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、お買い求めの販売店または最寄りの保守サービスセンターにご連絡ください。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- ー 長時間機器を使用しないときは、電源スイッチを切断し安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

巻き込み 歯車・ローラなどの可動部に衣服の袖やネクタイ、髪を巻き込まれないように注意してください。

破損 近くで雷が発生したときは、電源ケーブルをコンセントから抜いておいてください。入れたままにしておくと、機器が破損するおそれがあります。

故障 自動給紙部（ADF）を手で強く押したり、重いものを載せたりしないでください。故障するおそれがあります。



「4.3.3 自動給紙部（ADF）の清掃」に従って、定期的に清掃してください。

3.2 フラットベッドで原稿を読み取る

一枚の原稿を原稿台の上に載せ、原稿を読み取る場合の操作方法を説明します。

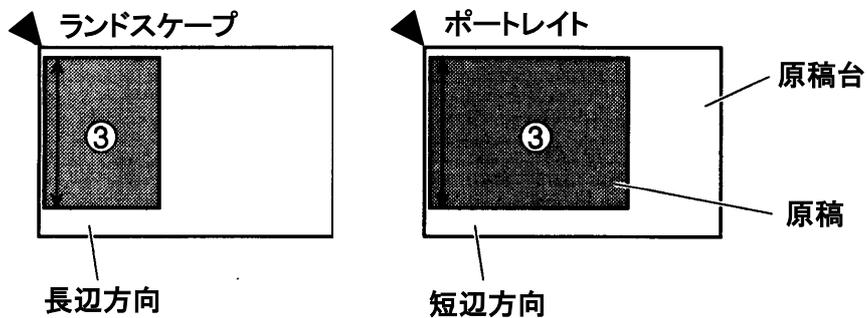
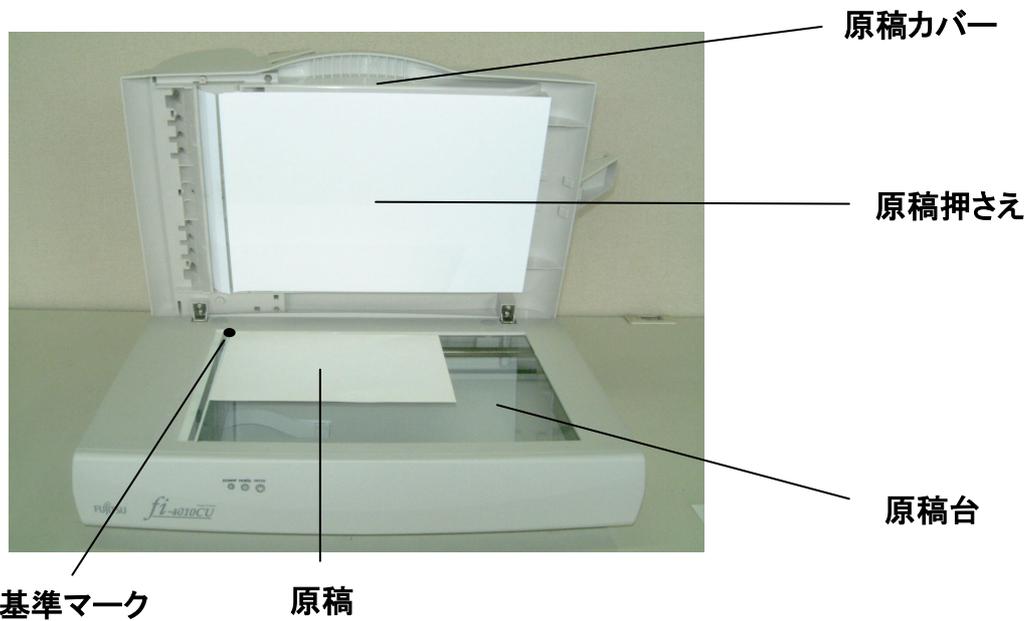
3.2.1 原稿の状態を確認する

原稿が原稿台の大きさ以下の場合、次の手順で操作してください。



注意

読み取り中は、原稿カバーを開けて蛍光灯の光を見つめないでください



- 1) 原稿カバーを開きます。
- 2) 原稿の読み取り面を下にし、原稿台の上に置きます。
原稿が曲がっていたり折れ癖のある場合は、平坦に伸ばしてください。
- 3) ランドスケープの場合は長辺方向を、ポートレイトの場合は短辺方向を原稿台の左端に合わせます。
- 4) 原稿の左上を基準マークに合わせます。
原稿が傾いていると、正確に読み取ることができません。
- 5) 原稿カバーをゆっくり閉じます。
原稿カバーを急激に閉じると、原稿が移動して正確に読み取れない場合があります。
- 6) スキャナドライバ画面上で読み取りモードを選択したり、原稿を読み取ります。
読み取り中は、原稿カバーを押さえたり、開いたりしないでください。
- 7) 読み取りが終わったら、原稿カバーを開き原稿を取り出します。

3.2.2 厚みのある原稿を読み取る

本のように厚みのある原稿を読み取る場合は、次の点に注意して操作してください。

- 1) 原稿カバーを上方に引き上げると取り外すことができます。
- 2) 原稿台から浮き上がった部分は、正確に読み取れませんので注意してください。
- 3) 読み取り中に原稿を動かすと、正確に読み取れませんので注意してください。



ほかの目的で原稿カバーを外さないでください。

3.3 自動給紙部（ADF）で原稿を読み取る

ここでは、原稿をスキャンする前の操作について説明します。

ここで説明する方法以外で操作すると、原稿詰まり、読み込み不良などのエラーが発生するおそれがありますので注意してください。

3.3.1 原稿の状態を確認する

ここでは、読み取りできる原稿と読み取りが困難な原稿について説明します。

読み取りできる原稿

以下に、読み取りのできる原稿を示します。

紙 質	・ 上質紙 ・ 中質紙 ・ P P C 用紙
連 量	52 g/m ² ～127 g/m ² (45 kg/連～110 kg/連)
大 き さ	A4、A5、B5、レターサイズ、リーガルサイズ

読み取りが困難な原稿

以下の、原稿は自動給紙部（ADF）ではうまく読み取れない場合があります。予期せぬエラーを防ぐためには、予備の原稿での給紙テストが必要な場合があります。原稿が自動給紙部（ADF）内で頻繁に滑ったり、詰まったり（ペーパージャムエラー）またはダブルフィードエラーを起こしたりする場合は、フラットベットを使って原稿を読み取ってください。

- － クリップ、ステープラーの針などがついているもの
- － インクの乾いていないもの
- － 紙厚の不均一な用紙（封筒や切り貼りされた用紙）
- － シワやカールの大きな用紙
- － 折れ破れのあるもの
- － トレーシングペーパー
- － コーティングが施されている用紙
- － 裏カーボン紙、感圧紙、ノーカーボン紙

- － レターサイズの幅（216mm）またはリーガルサイズの天地長さ（355mm）より大きな用紙
- － 布地、金属シート、OHP シートなど紙以外のもの
- － 印画紙
- － 周辺にミシン目加工されたもの
- － 四角形以外の異形用紙
- － 52 g/m²（45 kg/連）より薄いものおよび 104 g/m²（90 kg/連）より厚いもの
- － 幅の統一されていない用紙



ローラが汚れないようにするために、鉛筆で塗りつぶした原稿の読み取りは避けてください。たくさん原稿を読み取る場合は、できる限り頻繁にローラを清掃してください。



ノーカーボン紙はパッドユニットや原稿を送るローラ類（ピックローラ等）を傷めるような化学物質を含んでいますので、下記のことにご注意してください。

清掃： もしもピックミスがしばしば起きるようでしたら、「4.3.3 自動給紙部（ADF）の清掃」を参照して、パッドユニットとピックローラを清掃してください。

部品の交換：パッドユニットとピックローラおよび紙送りに使われるローラの寿命は、中質紙の原稿を読み取る場合に比べて短くなる場合があります。

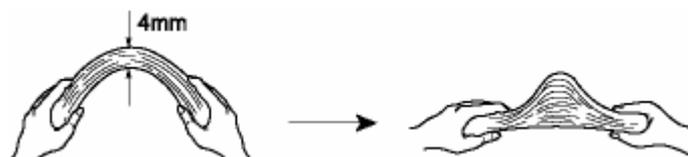
3.3.2 原稿のセットのしかた

ここでは、原稿のセットのしかたについて説明します。

原稿をさばく

セットする原稿は、次の要領で十分にさばいてください。

- 25 枚以下の原稿を両手で原稿の両端を軽くつかみ、原稿を湾曲させます。
- 原稿の両端にできた傾斜が元に戻らないように、両手で原稿を強くつかみ、湾曲を元に戻します。原稿に波状のふくらみが生じ、原稿の間に空気が入ります。
- 以上の動作を 2～3 回繰り返します。
- 原稿の向きを 90 度回転し、同様にさばきます。



セットする原稿の枚数は 25 枚以下にしてください。
25 枚以上セットすると原稿詰まり、読み取り不良を起こすおそれがあります。

フラットベッドに原稿がないか確認する

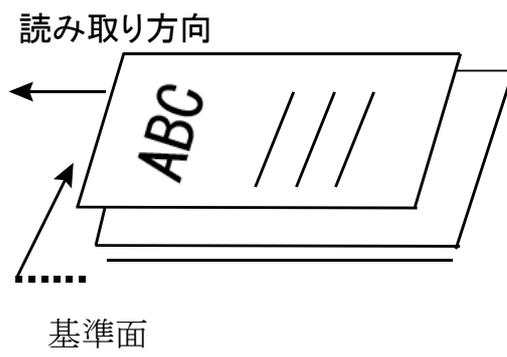
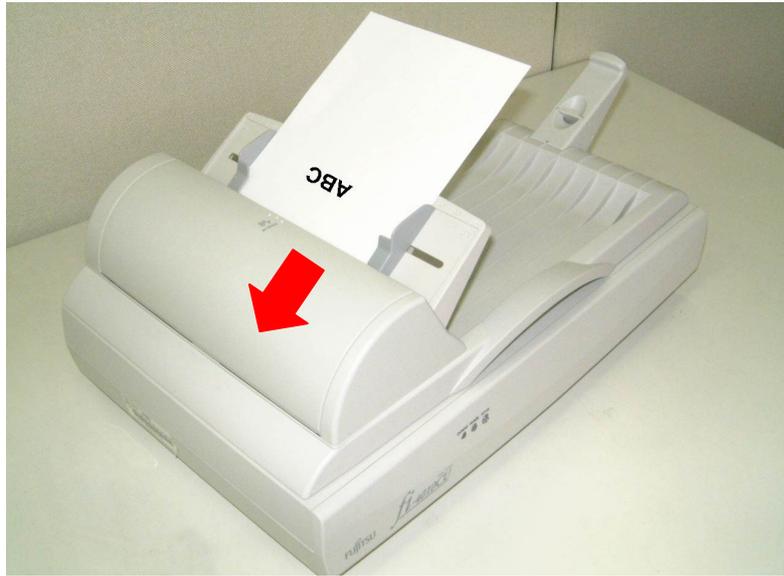
自動給紙部（ADF）で原稿を読み取る場合は、フラットベッドに原稿が無いことを確認してください。フラットベッドに原稿があると、自動給紙読み取り面が浮き上がり、きれいな画像を読み取ることができません。

先端を揃え原稿をセットする

セットする原稿をそろえることで、原稿が正確に読み取れます。



読み取り面を上側にセットしてください。



3.4 原稿を読み取る

ここでは、原稿の読み取り方法について説明します。

- 1) パソコンおよびスキヤナの電源が入っているか確認します。
- 2) 原稿の状態を確認します。
「3.3.1 原稿の状態を確認する」を参考にしてください。
- 3) セットする原稿を十分にさばきます。
「3.3.2 原稿のセットのしかた」を参考にしてください。
- 4) 原稿サポートに原稿をセットします。
 - － セットする原稿枚数の目安は、25枚以下にしてください。
 - － セットする原稿は、先端をそろえてください。
「3.3.2 原稿のセットのしかた」を参考にしてください。
 - － 読み取りを上向きにしてセットしてください。
 - － 原稿の先端が自動給紙部(ADF)の奥に軽く当たるまで差し込みます。
強く差し込みますと、原稿が数枚同時に給紙される原因になります。また、原稿の端が折り曲がっていないか確認してください。
- 5) 原稿の幅に合わせて原稿ガイドを移動し、原稿をまっすぐにセットします。
左右の原稿ガイドと原稿の間に隙間がありますと、原稿が斜めに読み込まれるおそれがあります。
- 6) パソコン本体から読み取り動作を開始してください。
- 7) 読み取りが終わりましたら、原稿をスタッカから取り出します。

4. 使用時の注意

ここでは、原稿詰まりの処理、日常の手入れ、清掃のしかたについて説明します。



自動給紙部（ADF）は、「4.3.3 自動給紙部（ADF）の清掃」にある清掃の目安をもとに清掃してください。

4.1 原稿詰まりの処理



注意

自動給紙部（ADF）の内部が高温になっている場合がありますので、やけどなどに注意してください。

自動給紙部（ADF）で原稿を読み取っているときに原稿が詰まった場合は、次の要領で原稿を取り除いてください。

- 1) 原稿サポートの上にある原稿を取り除きます。
- 2) ADFカバーを開けます。



- 3) つまっている原稿を取り除きます。
- 4) ADFカバーを閉じます。



A D Fカバーを確実に閉じてください。A D Fカバーが完全に閉じていないと、原稿詰まりの読み取り不良を起こすおそれがあります。

4.2 日常の手入れ

イメージスキャナを安定して使用していくためには、日常、注意しなければならないことがあります。

次のことに注意して使用してください。

- フラットベッドまたは自動給紙部（A D F）が汚れたときは、「4.3 清掃のしかた」に従って清掃してください。
特に、自動給紙部（A D F）は必ず清掃してください。

4.3 清掃のしかた

イメージスキャナの清掃のしかたについて説明します。



注意

- 火災・感電 — 本装置を清掃する場合は、電源スイッチを切断し、A Cアダプタの電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。

4.3.1 清掃用品

清掃用品を以下に示します。

品名	商品番号	出荷単位	備考
クリーナF 1	0 6 3 1 1 5 0	1 本	容量：100 m l

クリーナF 1 はスキャナを購入された販売会社、または富士通コワーコ株式会社にお問い合わせください。

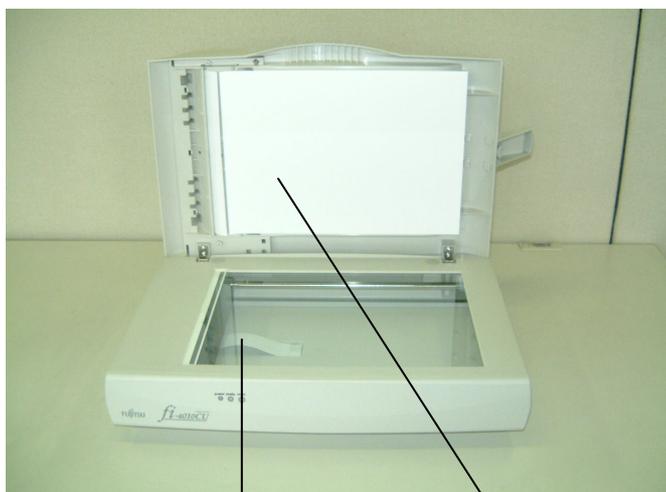
4.3.2 フラットベッドの清掃



クリーナF1の代わりに窓拭き用洗剤やガラス用クリーナなどもお使いいただけますが、シンナーなどの有機溶剤は使用しないでください。

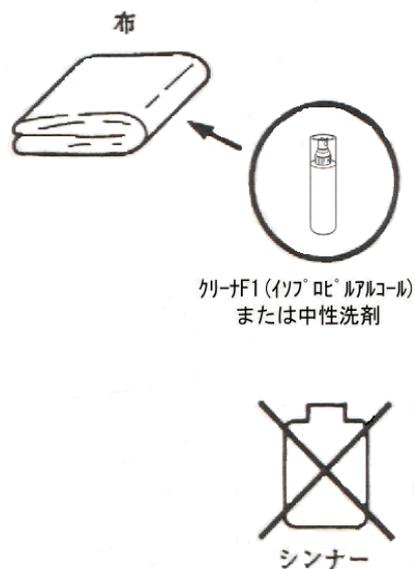
乾いた布、少量のクリーナF1(イソプロピルアルコール)、または中性洗剤を浸した布で以下の場所を清掃します。

- 原稿押さえパッド
軽く清掃します。
- 原稿台
そっと拭きます。



原稿台

原稿押さえパッド



清掃中に、原稿台とプラスチックカバーの隙間にクリーナが染み込まないように注意してください。

4.3.3 自動給紙部（ADF）の清掃



注意

自動給紙部（ADF）の内部が高温になっている場合がありますので、やけどなどに注意してください。

自動給紙部（ADF）の清掃は、目安として1000枚読み取りごとに行ってください。ただし、この目安は読み取る原稿によって変わります。たとえば、トナーが充分定着されていない原稿の場合、より少ない枚数で清掃が必要となることがあります。

自動給紙部（ADF）の清掃は、以下の要領で実施してください。

（次ページの図を参照してください）

- 1) カバーを左に回転させるようにして、自動給紙部（ADF）を開きます。
- 2) 乾いた布、またはイソプロピルアルコールを浸した布で、以下の個所を清掃します。

パッドユニット

右から左に向かって（矢印の方向）清掃します。このとき、ピックバネ、マイラーシート、センサレバーに引っ掛からないように注意してください。

ピックローラ

ローラの表面をいためないように、軽く清掃します。特に黒い異物が付着している場合、給紙性能に影響が出ますので、清掃を十分に行ってください。

プラスチックローラ

ローラの表面に傷をつけないように、軽く清掃します。特に黒い異物が付着している場合、給紙性能に影響が出ますので、清掃を十分に行ってください。

原稿サポートA

軽く清掃します。

原稿サポートB

軽く清掃します。

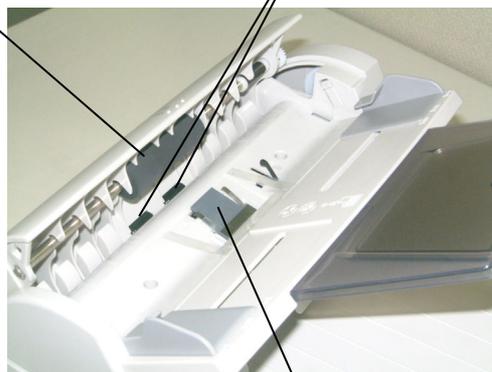


原稿サポートA

原稿サポートB

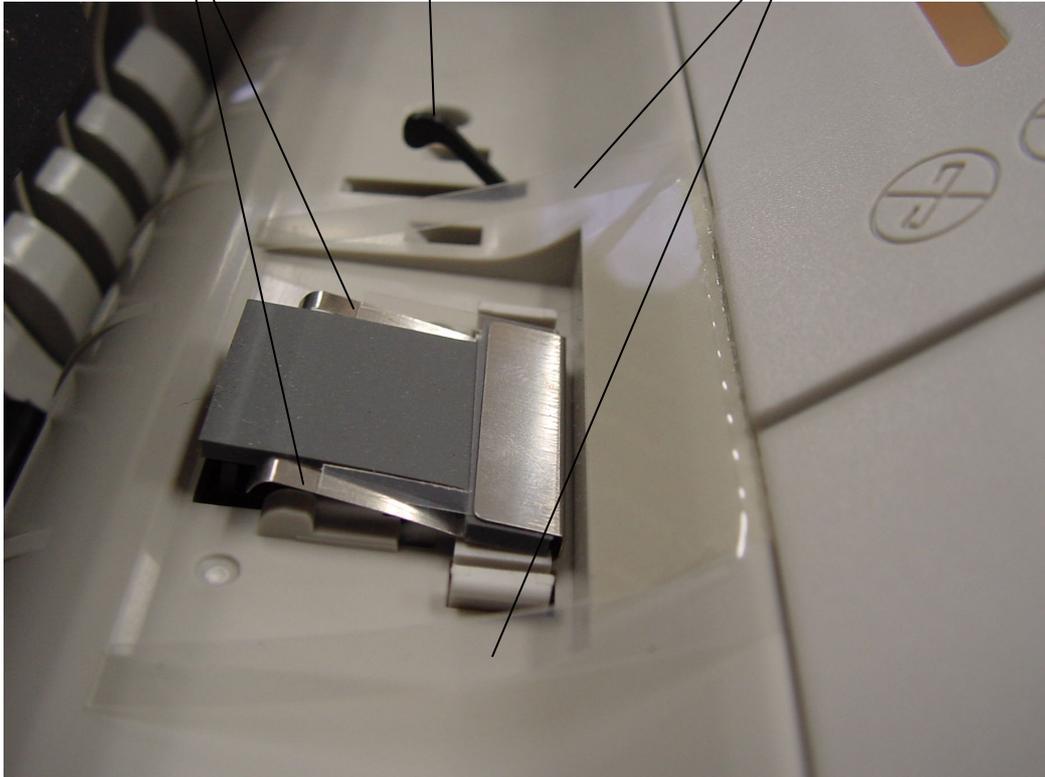
ピックアップローラ

プラスチックローラ



パッドユニット

ピックバネ センサレバー マイラーシート



3) 自動給紙部（ADF）を閉じます。



清掃終了後、自動給紙部（ADF）が完全に閉じていることを確認してください。完全に閉じられていないと、原稿詰りや読み込み不良を起こすおそれがあります。

4.4 消耗品



- 火災・感電
- 本装置の消耗品を交換する場合は、電源スイッチを切断しACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いて電源を切ってから行ってください。

4.4.1 消耗品の商品番号と交換周期

消耗品の商品番号と交換周期目安を、以下に示します。

交換時期がきましたら、本装置をお買い求めの販売会社または富士通コワーコ株式会社までご相談ください。

No.	品名	商品番号	交換周期 (目安)
1	パッドユニット	0961140	2万枚または1年のどちらか早い方

交換周期は、A4上質紙 64g/m² (55 kg/連) を使用した場合の目安であり、使用する用紙によって交換周期が異なります。



交換周期になりますと、スキャナドライバから以下の交換メッセージが表示されます。

「紙送り系エラー (ダブルフィード、ピックミス) が頻発する場合は、消耗品の交換が必要な時期です。早めに自動給紙部 (ADF) のパッドユニットを交換してください。」

4.4.2 パッドユニットの交換



注意

自動給紙部（ADF）の内部が高温になっている場合がありますので、やけどなどに注意してください。

パッドユニットの交換方法を、以下に示します。

取り外し方法

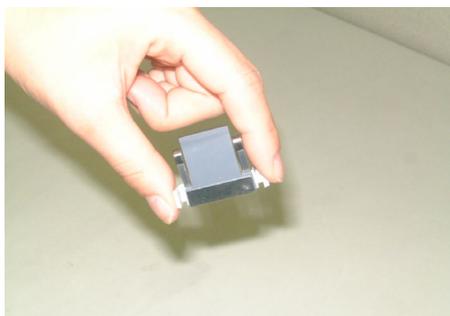
- 1) ADFカバーを外側に開きます。
- 2) 図のように、指でパッドユニットのクランプ（留め具）の両側を押さえ、パッドユニットを取り外します。



パッドユニット

取り付け方法

- 3) 新しいパッドユニットを箱から取り出します。
- 4) 指でパッドユニットのクランプ（留め具）の両側を持ち、パッドホルダにゆっくりと取り付けます。



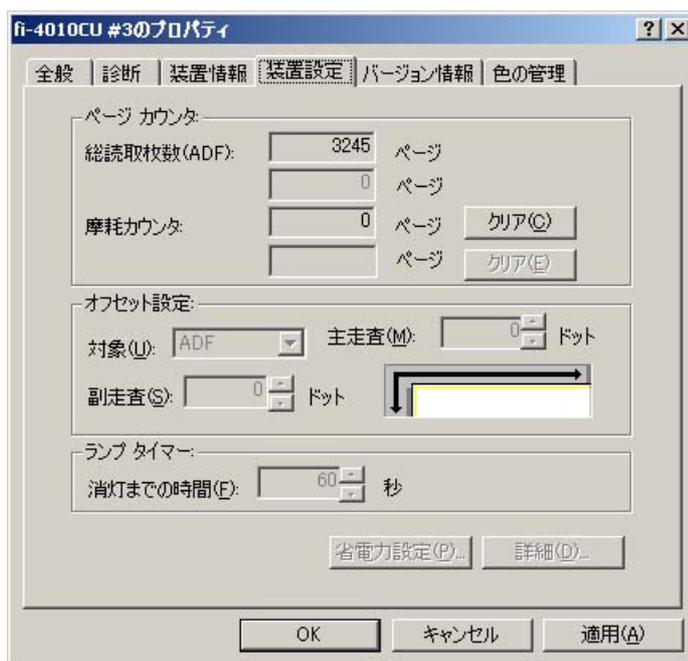
パッドユニットが確実に取り付けられているか確認してください。確実に取り付けないと、原稿詰まりや読み込み不良を起こすおそれがあります。

- 5) ADFカバーの中央を押して元の位置にゆっくり戻します。
- 6) パッドカウンタをリセットします。

パッドユニットの交換方法を、以下に示します。

- (1) スキャナの電源を投入し、スキャナとパソコンが接続されていることを確認します。
- (2) ホストコンピュータのコントロールパネル内にある「スキャナとカメラ」のアイコンをダブルクリックします。
[スキャナとカメラ]の画面が表示されます。
- (3) 「fi-4010CU」のアイコンをダブルクリックします。
[fi-4010CUのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- (4) 「装置設定」タブをクリックします。

以下の画面が表示されます。



「ページカウンタ」内の[クリア]ボタンをクリックした後、[OK]ボタンをクリックします。これでパッドカウンタが0に戻ります。



Windows® 2000 の画面を例に説明しています。

ご使用の OS によって表示される画面、および操作が多少異なります。

また、FUJITSU TWAIN32 スキャナドライバをアップデートすると、記載している画面、および操作が多少異なることがあります。

その場合は、アップデート時に提供される FUJITSU TWAIN32 スキャナドライバ取扱説明書を参照してください。

5. 故障かなと思ったときに

イメージスキャナを使っていて、「故障かな？」と思ったら、次のことを確認してください。

こんなとき	ここをお調べください	処 置
電源が入らない	ACアダプタがきちんと接続されていますか？	ACアダプタを正しく接続してください。
	—	ACアダプタを一度抜き、電源を切ります。再度、電源ケーブルを接続し、電源を入れます。その結果、再度電源が入らない場合は、お買い求めの販売店または最寄りの保守サービスセンターにご連絡ください。
読み取りを開始しない	自動給紙部（ADF）で原稿が奥まで差し込まれていますか？	軽く奥まで押し込んでください。
	自動給紙部（ADF）が完全に閉じられていますか？	自動給紙部（ADF）が閉じられているか確認してください。
	インタフェースケーブルがきちんと接続されていますか？	インタフェースケーブルを正しく接続してください。
絵や写真の読み取り結果が良くない	中間調処理を行っていますか？	ドライバ画面よりお好みの中間調処理を選択してください。
	原稿台、自動給紙部（ADF）の中が汚れていませんか？	「4.3 清掃のしかた」に従って、清掃してください。
文字や線画の読み取り結果が良くない	中間調処理を行っていませんか？	ドライバ画面より二値化処理を選択してください。
	原稿台、自動給紙部の中が汚れていませんか？	「4.3 清掃のしかた」に従って、清掃してください。
画像がずれる 画像がゆがむ	原稿が原稿サポートにまっすぐにセットされていますか？	原稿ガイドを使用して、原稿をまっすぐにセットしてください。
ダブルフィード*が多発する	パッドユニットが汚れていませんか？	「4.3.3 自動給紙部（ADF）の清掃」を参照し、パッドユニットを清掃してください。
	パッドユニットが消耗していませんか？	パッドユニットを交換してください。

こんなとき	ここをお調べください	処 置
原稿がフィードされない（途中で止まる）	ピックアップローラが汚れていませんか？	「4.3.3 自動給紙部（ADF）の清掃」を参照し、ピックアップローラを清掃してください。
	搬送路に異物が入っていませんか？	搬送路の異物を取り除いてください（「4.1 原稿詰まりの処理」を参照してください）。
Checkランプが点滅する	点滅回数が7回	「2.2 出荷時のロックの解除方法」を参照しスキャナのロックを解除してください。
	点滅回数が2, 3, 5, 6, 8回	スキャナとパソコン本体の電源を切ります。再度、電源を入れCheckランプが点滅するか確認します。 Checkランプ点滅がなくならない場合は、お買い求めの販売店または最寄りの保守サービスセンターにご連絡ください。

*ダブルフィードとは、原稿が重なって読み込まれることです。

*ピックアップミスとは、原稿を自動給紙部（ADF）に送り込む際のピックアップが失敗することです。

A. 設置諸元

本装置の設置諸元は、次のとおりです。

項 目		仕 様		
外形寸法 (mm)		幅	奥行	高さ
		445	304	179
重 量 (kg)		4.9		
入 力 電 源	電 圧 範 囲	100V～240V		
	相	単 相		
	周波数範囲	50/60Hz		
消 費 電 力	動 作 中	24W 以下		
	非 使 用 時	7 W 以下		
動 作 環 境	装 置 状 態	動作中	非使用時	保管運搬時
	温度 (°C)	15～35	-10～60	-10～60
	湿度 (%)	35～80	20～80	20～80
装 置 寿 命		5 年 または 1 2 万枚		



本装置の寿命は、お買い上げ後5年または、ご使用枚数12万枚のいずれか早い方となります。

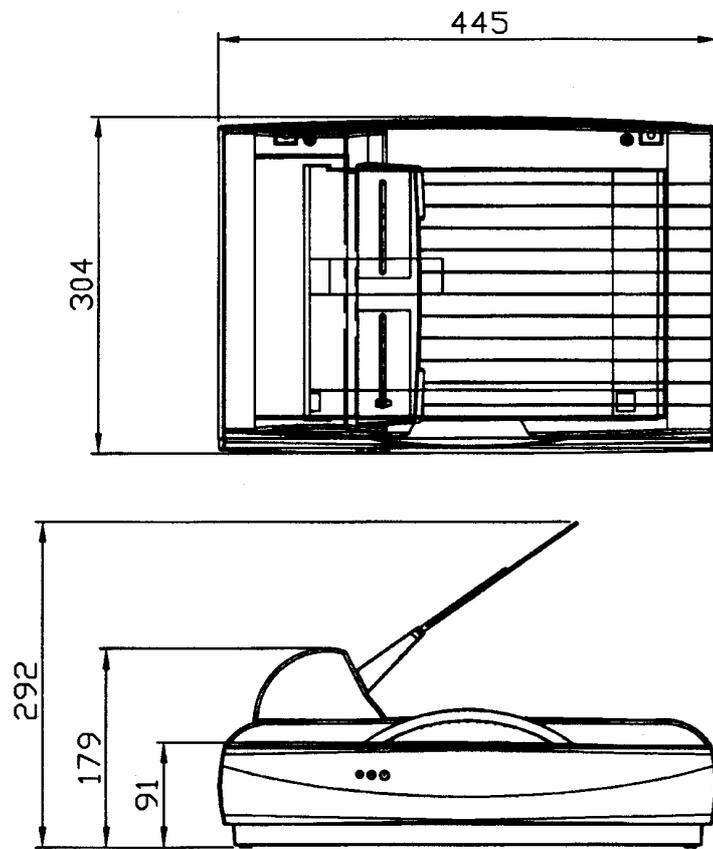


お客様の清掃、消耗品の交換周期、ご使用の原稿など、当社が推奨する条件を満たしていない場合は、装置寿命12万枚を下回る場合があります。



寿命を超えて、ご使用された場合は、装置の故障または読み取り性能に支障が出る場合があります。

外形寸法



修理・お問い合わせについて

当社では、お客様に安心してイメージスキャナfiシリーズをご使用いただけるよう、万全のサポート体制を整えています。

購入時にご加入いただく契約サービスと、必要な時にその都度ご利用いただけるスポットサービスによりお客様を強力にバックアップいたします。

■ 契約サービス

■ 定額定期保守サービス

年に一度予防保守を行います。万一の障害発生時には、保守員がお客様のところにお伺いして保守修理作業を実施します。

■ 定額訪問修理サービス

万一の障害発生時には、保守員がお客様のところにお伺いして保守修理作業を実施します。

なお、コール受付窓口については、担当の保守員にお問い合わせください。

■ スポットサービス（有償）

■ センドバック修理サービス

修理窓口まで装置を持ち込んで頂き修理をおこないます。

SENDバック修理サービス	修理窓口まで装置を持ち込んで頂き修理をおこないます。 当社所定料金と部品費にて修理をおこないます。 当社修理拠点までの送料は、発送元負担となります。 持込基本料金：20,000円+部品費（実費）
---------------	--

引き取り修理サービス（付加） ※保証期間中も有償となります	当社指定の運送業者がお客様のご指定日時に引き取りにお伺いし、修理品をお預かりします。修理品は業者が梱包いたします。引き取りを行える装置は、A 4機のみとさせていただきます。 引き取り基本料金：3,000円
代替機サービス（付加） ※保証期間中も有償となります	「引取りサービス」をご利用いただいたお客様には、修理期間中の代替機貸し出しサービスをご利用になることができます。代替機については、同一機種ではなく、同等機能をもつ機種となることがあります。 代替機貸し出し料金：5,000円
キャンセル料	8,000円

■ オンサイト修理サービス

装置の故障発生時に、ご連絡を頂き、その後サービスマンが直接修理に伺います。

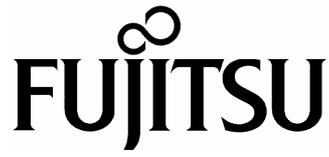
オンサイト修理サービス	訪問基本料金（2時間まで）： 25,000円＋部品費（実費）＋オプション料金 ＋加算料金（技術料等）
-------------	--



上記料金は、2002年9月現在の標準参考価格です。
状況により予告なく変更することがあります。

スポットサービスの場合の故障・修理、および各種お問い合わせ	
受付窓口	P F Uイメージング サービス&サポートセンター
E-mail	scanners@pfu.fujitsu.com
電話	0120-37-9089 042-788-7746（携帯電話からおかけの場合）
受付時間	月～金曜日 9:00～12:00、13:30～17:00 （土・日・祝祭日・当社休業日を除く）
修理拠点	株式会社P F U 金沢クーリエセンター 電話：076-204-2600 ※住所につきましては、保証書の記載をご覧ください。
ウェブサイト	http://imagescanner.fujitsu.com/jp/

なお、本サービス内容は、予告なく変更される場合があります。
 詳細につきましては、当社ホームページでご確認いただくか、または
 P F Uイメージングサービス&サポートセンターまでお問い合わせく
 ださい。



このマニュアルは再生紙を使用しています。